

幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」

①健康な心と体

- いろいろな遊びの場面に応じて、体の諸部位を十分に動かす。
- 衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動の必要性に気づき、自分でする。
- 生活リズムを整え、健康を身に付け、自分の体を大切にする気持ちをもつ。

②自立心

- 自分のことは自分で行き、自分でできないことは親、教職員や友達の助けを借りて行う。
- 活動や遊びにおいて自分の力で最後までやり遂げ、満足感や達成感をもつ。

③協同性

- 相手にわかるように伝えたり、相手の気持ちを察して自分の思いの出し方を考えたり、我慢したり、気持ちを切り替えたりしながら、わかり合う。
- みんなで共通の目的をもって話し合ったり、役割を分担したりして、実現に向けて力を発揮しやり遂げる。

④道徳性・規範意識の芽生え

- 友達や周りの人の気持ちを理解し、思いやりをもって接する。
- 他者の気持ちに共感したり、相手の気持ちを大切に考えながら行動する。
- みんなと心地よく過ごしたり、楽しくするための決まりがあることが分かり、守ろうとする。
- みんなで使うものに愛着をもち、大事に扱う。

⑤社会生活との関わり

- 家族を大切にしようとする気持ちをもつ。
- 関係の深い人との触れ合いの中で、自分が役に立つ喜びを感じる。
- 地域の伝統的な行事に触れ、自分たちの住む地域に一層親しみを感じる。
- 友達同士で目的に必要な情報を伝え合ったり、活用したりする。

⑥思考力の芽生え

- 身近な物や用具の特性や仕組みを生かし、予想したりして楽しみながら工夫して使う。

⑦自然との関わり・生命尊重

- 水や氷など、同じものでも季節により変化するものがあることを感じ取ったり、変化に応じて生活や遊びを変えたりする。
- 自然の素材や自然現象を遊びに取り入れたり、自然の不思議さをいろいろな方法で確かめたりする。
- 動物の世話や植物の栽培を通じて、生きるものへの愛着を感じ、生命の尊さに気づき、感動したり、いたわったり、大切にしたりする。

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

- 文字やさまざまな標識が、生活や遊びの中で人と人をつなぐコミュニケーションの役割をもつことに気づき、読んだり、書いたり、使ったりする。

⑨言葉による伝え合い

- イメージや考えを言葉で表現しながら、文字を読んだり、書いたりする。
- 言葉の持つ面白さを感じたり、想像の世界を友達と共有し、言葉による表現を楽しんだりする。

⑩豊かな感性と表現

- 生活や遊びを通して感じたことや考えたことを、音や動きで表現したり、自由にかいたり、作ったりする。

※「10の姿」は到達すべき目標ではなく、子どもたちの主体的な学びを通じて、総合的に育まれるものです。